

はじめに

学校現場では、「子どもたちの姿を捉え、授業の工夫を考えるのは楽しいが、評価の作業は気が重い」といった声を聞くことが少ない。この声には、日常用語として使われる「評価」と、教育学でいう「評価」とのズレがよく現れている。日常場面で「評価」は、成績づけを意味する言葉として捉えられがちである。しかし、教育学で定義される「評価」は、成績づけにとどまるものではない。

教育学でいう「評価」は、まさしく、子どもたちの姿を捉え、教育実践の改善に活かす営みそのものである。教育によってどのように子どもたちを育てたいのかを考え、さまざまな方法で成長の姿が発揮されるように促す。困難に直面していれば、教師と子どもが、さらにはさまざまな関係者が、ともに乗り越える手立てを考え、乗り越えられたときにはその喜びを共有する。本書では、そういった「教育評価」本来のあり方を提案することをめざしている。

執筆にあたっては、次の3点を心がけた。

第一に、教育評価に関わって歴史的に蓄積されてきた実践の成果とともに、最新の研究動向をふまえた内容にすることである。たとえば、グローバル化・ICT化・地球温暖化など急激な変化が各所にみられる現代において、次の時代をつくる人に求められる「資質・能力」とは何か、今、国内外で問われている。本書では、そういった「資質・能力」と学力の関係をどう捉え、どのように目標を設定することができるのかについて、現時点での提案を示している。また、「学習のための評価」・「学習としての評価」といった新たな概念についても紹介している。

第二に、実践を進める際に陥りがちな問題点を指摘するとともに、

どのようにしてそれらの問題点を克服できるのかの展望を示すことである。たとえば、「思考力・判断力・表現力」といった高次の学力を保障するために有効だと注目されているパフォーマンス評価や、子どもたちの自己評価力を伸ばすポートフォリオ評価法についても、詳細を説明している。さらに、学校現場でよく投げかけられる質問への回答を端的に示したコラムを各章に配している。

第三に、教育評価に関わるさまざまな局面を視野に入れることである。本書では、教師が授業において子どもたちを評価する活動だけでなく、学校経営に関わる評価や、入試などの制度的側面も論じている。また、本文中では「子ども」という表記を用いているが、児童・生徒・学生などさまざまな年齢の学習者を対象とした評価や、職業教育における評価などにも適用されるような、教育評価の基礎・基本を示すことをめざした。

本書の執筆陣は、京都大学大学院教育学研究科の教育方法研究室でともに学んできた仲間たちである。執筆にあたっては編集会議を重ねて議論をたたかわせ、互いの原稿を推敲して最善をめざした。しかしながら、著者たちの力不足がみられる点も残っていることであらう。読者からの忌憚のないご批評をお願いしたい。本書が先生方を励まし、ひいては子どもたちを励ますものとなれば、著者一同、望外の幸せである。

最後になったが、本書の刊行にあたっては、企画の段階から編集・刊行に至るまで、有斐閣の中村さやか氏に多大なご支援をいただいた。ここに記して、心より感謝したい。

2014年12月

編 者

執筆者紹介

● 編 者

西岡 加名恵 (にしおか かなえ) 担当 序章, 5 章

現 在 京都大学大学院教育学研究科准教授

主 著

『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』(編著) 明治図書, 2016 年。

『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』(単著) 図書文化, 2016 年。

『新しい時代の教育課程』(共著) 有斐閣, 2005 年。

石井 英真 (いしい てるまさ) 担当 1, 3 章

現 在 京都大学大学院教育学研究科准教授

主 著

『今求められる学力と学びとは——コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』(単著) 日本標準, 2015 年。

『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』(共著), ミネルヴァ書房, 2013 年。

『現代アメリカにおける学力形成論の展開——スタンダードに基づくカリキュラムの設計』(単著) 東信堂, 2011 年。

田中 耕治 (たなか こうじ) 担当 8 章 2 節 4 項, 卷末資料

現 在 京都大学大学院教育学研究科教授

主 著

『教育評価と教育実践の課題——「評価の時代」を拓く』(単著) 三学出版, 2013 年。

『新しい時代の教育方法』(共著) 有斐閣, 2012 年。

『教育評価』(単著) 岩波書店, 2008 年。

● 執 筆 者

二宮 衆一 (にのみや しゅういち) 担当 2 章

現 在 和歌山大学教育学部准教授

主 著

『イギリスの ARG による『学習のための評価』論の考察』『教育方法学研究』
Vol. 38, pp. 97-107, 2013 年。

『時代を拓いた教師たちⅡ——実践から教育を問い直す』（分担執筆）日本標準，2009 年。

『新しい学力テストを読み解く——PISA/TIMSS/全国学力・学習状況調査/教育課程実施状況調査の分析とその課題』（分担執筆）日本標準，2008 年。

遠藤 貴広（えんどう たかひろ）

担当 4 章 1 節

現在 福井大学大学院教育学研究科准教授

主 著

『教師の専門的力量と教育実践の課題』（分担執筆）図書文化社，2013 年。

『アメリカ教育改革の最前線——頂点への競争』（分担執筆）学術出版会，2012 年。

『〈新しい能力〉は教育を変えるか——学力・リテラシー・コンピテンシー』（分担執筆）ミネルヴァ書房，2010 年。

渡辺 貴裕（わたなべ たかひろ）

担当 4 章 2 節

現在 東京学芸大学教職大学院准教授

主 著

『ドラマと学びの場——3つのワークショップから教育空間を考える』（共編）
晩成書房，2014 年。

『教育におけるドラマ技法の探究——「学びの体系化」にむけて』（分担執筆）
明石書店，2014 年。

『時代を拓いた教師たちⅡ——実践から教育を問い直す』（分担執筆）日本標準，2009 年。

赤沢 早人（あかざわ はやと）

担当 6 章 1, 2 節

現在 奈良教育大学次世代教員養成センター准教授

主 著

『授業と評価をデザインする 社会——質の高い学力を保障するために』（共著）
日本標準，2010 年。

『「評価の時代」を読み解く——教育目標・評価研究の課題と展望』上（分担執筆）
日本標準，2010 年。

『「カリマネ」で学校はここまで変わる！——続・学びを起こす授業改革』（分担執筆）
ぎょうせい，2013 年。

八田 幸恵 (はった さちえ) 担当 6章3.4節

現在 大阪教育大学教育学部准教授

主 著

『東アジア新時代の日本の教育——中国との対話』(分担執筆) 京都大学学術出版会, 2012年。

『現代の教育改革と教師——これからの教師教育研究のために』(分担執筆) 東京学芸大学出版会, 2011年。

『時代を拓いた教師たち——戦後教育実践からのメッセージ』(分担執筆) 日本標準, 2005年。

樋口 太郎 (ひぐち たろう) 担当 7章1.2節

現在 大阪経済大学経済学部准教授

主 著

『〈新しい能力〉は教育を変えるか——学力・リテラシー・コンピテンシー』(分担執筆) ミネルヴァ書房, 2010年。

『時代を拓いた教師たちⅡ——実践から教育を問い直す』(分担執筆) 日本標準, 2009年。

『人物で綴る戦後教育評価の歴史』(分担執筆) 三学出版, 2007年。

樋口 とみ子 (ひぐち とみこ) 担当 7章3.4節

現在 京都教育大学教育支援センター准教授

主 著

『リテラシーをとらえる新たな枠組み——OECDのPIAAC』『教育目標・評価学会紀要』No. 24, pp. 9-17, 2014年。

『ユネスコにおけるリテラシー概念の展開——リフレクト・アプローチに着目して』『カリキュラム研究』No. 21, pp. 43-55, 2012年。

『〈新しい能力〉は教育を変えるか——学力・リテラシー・コンピテンシー』(分担執筆) ミネルヴァ書房, 2010年。

川地 亜弥子 (かわじ あやこ) 担当 8章1節, 2節1~3項

現在 神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授

主 著

『教師の専門的力量と教育実践の課題』(分担執筆) 図書文化, 2013年。

『「評価の時代」を読み解く——教育目標・評価研究の課題と展望』下(分担執筆)

筆) 日本標準, 2010 年。

『人物で綴る戦後教育評価の歴史』(分担執筆) 三学出版, 2007 年。

● Column 執筆者

- | | |
|------------------------|-------------|
| 赤沢 真世 (あかざわ まさよ) | 担当 Column ① |
| 現在 大阪成蹊大学教育学部准教授 | |
| 羽山 裕子 (はやま ゆうこ) | 担当 Column ② |
| 現在 国士舘大学文学部講師 | |
| 窪田 知子 (くぼた ともこ) | 担当 Column ③ |
| 現在 滋賀大学教育学部准教授 | |
| 山本 はるか (やまもと はるか) | 担当 Column ④ |
| 現在 帝塚山学院大学教職実践研究センター助手 | |
| 小山 英恵 (こやま はなえ) | 担当 Column ⑤ |
| 現在 鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授 | |
| 趙 卿我 (ちょう きょんあ) | 担当 Column ⑥ |
| 現在 愛知教育大学教育学部講師 | |
| 奥村 好美 (おくむら よしみ) | 担当 Column ⑦ |
| 現在 兵庫教育大学大学院学校教育研究科講師 | |
| 鄭 谷心 (てい こくしん) | 担当 Column ⑧ |
| 現在 東京学芸大学次世代教育研究推進機構助教 | |
| 本所 恵 (ほんじょ めぐみ) | 担当 Column ⑨ |
| 現在 金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授 | |

目 次

はじめに i

序 章 教育評価とは何か 1

- 1 教育評価の意義 2
「教育評価」概念の成立 (2) 「目標に準拠した評価」をめぐる論点 (4) 教育評価の機能 (6)
- 2 教育実践における教育評価の位置づけ 7
教育目標についての検討 (7) 学力評価のさまざまな方法 (9) 指導計画の作成と、教育実践の改善 (11)
- 3 教育評価の目的・対象・主体 13
目的・対象・主体 (13) 学校経営と評価 (15)
教育評価の制度 (16)
- 4 教育評価の歴史 19

第 1 章 教育評価の立場 23

- 1 4つの教育評価観 24
- 2 相対評価と到達度評価 27
相対評価の隆盛 (27) 相対評価と絶対評価とのバランス論 (29) 到達度評価の成立 (30)
- 3 「目標に準拠した評価」をめぐる論点 33
「目標に準拠した評価」への批判の諸相 (33)
「スタンダードに基づく教育改革」の展開と「目標

に準拠した評価」の課題 (39)

- 4 「目標に準拠した評価」の新たな形の構想 …………… 43
標準テスト批判と「真正の評価」論の誕生 (43)
「真正の評価」論の基本的な考え方 (44) 「真正
の評価」論が提起する教育評価の新たな形 (46)

第 2 章 教育評価の機能 51

- 1 教育評価機能の分化 …………… 52
—— 診断的評価と形成的評価, 総括的評価の提唱
ブルームによる 3 種の評価機能の提唱 (52) 日
本におけるブルーム評価論の受容と展開 (55)
- 2 形成的評価と総括的評価の新たな展開 …………… 59
ブルーム理論の問い直し (59) 「学習のための評
価」と「学習の評価」(60) 問われる形成的評価
と総括的評価の関係性 (63)
- 3 「学習のための評価」としての形成的評価 …………… 66
学習と連動した形成的評価の構築 (66) 形成的
評価の新たな展望と課題 (68)

第 3 章 教育目標と評価 77

- 1 教育目標の明確化の方法論 …………… 78
教育目標の明確化の必要性 (78) 行動目標論
—— 「何をどう学んだか」に着目する (79) 教
育目標の細分化と類型化 (82) 具体的な学習者
の姿で目標をイメージする (83)
- 2 学力モデル研究の展開 …………… 85

学力モデルと態度主義 (85) 態度主義を乗り越える試み (86) 学力モデルと観点別評価 (90)

3 ポスト近代社会における学力と評価の課題 …………… 92

汎用的な能力の要請 (92) ブルーム・タキソノミーの改訂 (93) めざす能力の質的レベルの明確化 (94) 学校で育てる資質・能力の全体像を捉える枠組み (100) 知的・社会的能力の長期的な育ちを支える目標と評価のシステム (102)

4 情意領域の目標と評価の現段階 …………… 105

情意領域の研究の展開 (105) 情意領域の評価の原則 (107)

第 4 章 学力評価の方法 113

1 評価方法を設計・検討する視点 …………… 114

評価の質を問う視点——信頼性と妥当性 (114) 「真正の評価」の意義 (116) モデレーション——信頼性確保のための新たな土台 (119) 「教育評価」としての質を評価する新たな視点 (120)

2 学力を把握するための方法 …………… 122

複数の評価方法の必要性 (122) 選択回答式 (124) 自由記述式 (127) 実技テスト (131) 日常的な評価 (132) パフォーマンス課題 (133) ポートフォリオ評価法 (139)

第 5 章 教育実践の改善 143

1 評価を活かしたカリキュラム設計 …………… 144

指導計画の作成 (144) 「知の構造」と評価方法

- (145) パフォーマンス課題のつくり方 (148)
- 2 評価基準を明確にする 149
 特定課題ルーブリックをつくる (149) 長期的
 ルーブリック (153) 学力評価計画 (154)
- 3 効果的な指導のための方策 156
 単元内・単元間の構造化 (156) 形成的評価と
 フィードバック, 検討会 (158)
- 4 ポートフォリオの設計と活用 161
 ポートフォリオとは何か (161) ポートフォリオ
 の所有権 (163) 指導上のポイント (165)

第6章 学校経営と評価

169

- 1 カリキュラム評価 170
 学校の自主性・自律性とカリキュラム (170) カ
 リキュラムの開発・経営と評価 (172) 子どもの
 成長を支えるカリキュラム評価 (174)
- 2 学校評価 175
 学校評価導入の経緯 (175) 学校評価の実際
 (179) 子どもの成長を支える学校評価 (181)
- 3 教員評価 185
 生涯にわたる力量形成を意図する制度改革——教員
 免許状の資格化 (186) 処遇の決定か専門職性の
 開発か——教員免許更新制, 人事考課制度 (187)
 教師の専門職スタンダードの必要性 (188) キャ
 リアステージの違いをふまえた教員評価——教師の
 ライフコース研究 (190)
- 4 授業評価 191

授業評価アンケートとチェックリストの特徴 (192)
授業研究を通してよりよい授業像を提案し共有財産化する (193) さまざまな局面での教師の意思決定を吟味する——授業検討会, ストップモーション方式 (194) 子ども一人ひとりの学びに目を開く——授業カンファレンス (195) 開かれた授業評価へ (196)

第7章 教育評価の制度

201

- 1 指導要録 202
指導要録とは——「指導」と「証明」という2つの機能 (202) 指導要録の歴史と現在 (203)
- 2 通知表 211
通知表とは (211) よりよい通知表を求めて (212) 通知表づくりの観点 (214)
- 3 入試制度 215
入試とは (215) 志願者の「能力」を測る試験 (215) 「メリトクラシー」と呼ばれる状況 (216) 選抜競争の広がり (219) テスト主義の揺らぎ (220) 入試で何を測るのか (221) 人物重視の動きをめぐって (222) 選抜方法の多様化・多元化 (223)
- 4 学校間接続 225
選抜システムの揺らぎ (225) 選抜試験に対する資格試験 (226) 教育内容を接続する (227)

1 戦前日本における教育評価	234
「試験」の時代 (234)	「考査」の時代 (237)
2 戦後日本における教育評価	242
能力主義と「相対評価」(242)	相対評価への疑義 (244)
到達度評価の登場 (247)	「目標に準拠した評価」の時代 (249)
巻末資料：戦後学習指導要領の特徴 (小学校を中心にして)	257
戦後児童指導要録の特徴	260
おわりに	263
事項索引	267
人名索引	274

Column

- ① 何のための評価ですか？ 17
 - ② 「目標に準拠した評価」では成績が甘くなるんじゃないですか？ 35
 - ③ 特別なニーズのある子どもへの評価はどうすればいいのですか？ 70
 - ④ 「関心・意欲・態度」の評価はどうすればいいのですか？ 88
 - ⑤ 芸術系教科の評価はどうすればいいのですか？ 117
 - ⑥ 韓国でパフォーマンス評価はどのように実践されていますか？ 152
 - ⑦ 学校の自己評価をどのようにすればよいのでしょうか？ 177
 - ⑧ 試験の源流とされる科举とはどのようなものですか？ 217
 - ⑨ 資格試験型入試とはどのようなものですか？ 228
-

事項索引

● アルファベット

ARG 66
e ポートフォリオ 140
GRASPS 137
NPM (ニュー・パブリック・マネジ
メント) 16,171
PDCA サイクル 15,17,39,172
PISA (国際学習到達度調査) 92,
253
——ショック 21

● あ行

アカウントビリティ (説明責任)
13,40,60
相補的—— 47
アビトゥーア 227,228
一教科一評定 205
一般化 54
ヴィジョン 109
エバリュエーション 3,242
応答責任 42
落ちこぼれ 247

● か行

改善 3,15,32,145
学習—— 53,60,66
学校—— 47,181
カリキュラム—— 53,145,175
指導—— 60,66
授業—— 3,191
外的な評価 73
概念マップ法 129
科学性 27
科学 (官吏登用試験) 216,217

格差 41
学力—— 224,239
学習
——改善 53,60,66
——過程 140
——可能性 56
——観 66,105
——支援 62
——状況 13
——成果 62,79
——成果物 62,138
——態度 8,88
——適正 53
——としての評価 7,46,73
——の質 95,101
——の自律性 140
——のための評価 7,60,66
——の評価 7,60
——方略 105
「教科する」—— 45
自己調整—— 105
真正の—— 44
プログラム—— 82
学習権保障 32,247
学習指導要領 15,170
学習発表会 46
学制 234
学籍 202
——簿 20,204,238
学力 8
——格差 224,239
——観 54,210
——・人格の空洞化 244
——低下論争 252
——の質 95,101
——評価 108
——評価計画 155

—保障	32,207,247	キー・コンピテンシー	8,92
—モデル	85	規 準 → 評価規準	
生きて働く—	85	基 準 → 評価基準	
確かな—	210	規準準拠評価	4,26
見えにくい—	90	規制緩和	176
見える—	90	技 能	102,124
学歴競争	243	義務教育	15,176
学歴社会	238,244	—の構造改革	16
学歴崇拜	219	逆向き設計	145
課題分析	82	客観性	27,31,62,243
価値観形成	90	客観テスト	28,124,238
学 級	237	教育課程編成	248
学級制	20,238	教育再生実行会議	254
学 校		教育実践記録	254
—改善	47,181	教育測定	238
—間接続	19,227	—運動	239
—経営	171,172	教育勅語	19,237
—の自己評価	177	教育的鑑識眼	34
—の自主性・自律性	171,176	教育的批評	34
学校関係者評価	179,183	教育の現代化	247
学校評価	176,177	教育評価	3
—における実効性	183	—の機能	52,60
—の評価項目	180	—の主体	13
教員研修と—の一体化	185	—の対象	13
学校評価ガイドライン	179	—の目的	13,252
活用する力	95,253	教育目的(目的)	3,7,53,79
課程主義	19,235	教育目標(目標)	7,78
カリキュラム		—指向性	105
—改善	53,145	—設定	5,31
—開発	37,170,174	—の具体化	84
—適合性	11,121	—の細分化	82
—の成果	172	—の分類学	81
—評価	36,108,170,174	—の明確化	39,84
隠れた—	37	—の類型化	83
公的—	37	—を設定する権利	4
観 察	132	学校—	109
関心・意欲・態度	8,86	教科の—	7
—の評価	88	共通—	40
観 点 別 学 習 状 況 欄	206	教員(教師, 教職員)	
観 点 別 評 価	83	—に必要な資質能力	187

—の主観 237
—の職能開発 181
—の専門職性開発 186
—のライフコース 191
—評価 186
教員研修 184
—と学校評価の一体化 185
教員免許更新制 187
教員免許制度改革 186
教員養成 186
—スタンダード 189
教化 107
教科外活動 100
教科学習 98
教学聖旨 19,237
教室文化 107
行 状 19
業績主義 219
競 争 28,31,225
 学歴—— 243
 受験—— 220,244
芸術教育 34
芸術系教科の評価 117
形成的評価 6,36,52,59,108,158,174
—の活動プロセス 60
 学習改善をめざす—— 66
結果責任 42
結果の平等 30
結果評価 172
研究授業 195
検討会 11,119,160,165,195
行為システム 100
工学的アプローチ 37
高校基礎学力テスト 224
皇国民の錬成 240
考 査 20,237
構成主義の学習観(学習論) 66,93
公正性 11,121
口頭試問 27,221,239
行動・認知過程 81

行動目標 33,81
公平性 62
個人内評価 27,47,251
 横断的—— 27
 縦断的—— 27,63
 相対評価と——の接合 30
個 性 20,44,239
個性調査簿 239
子ども
—の成長 184
 出口の——のイメージ 84
コミュニケーション 92
ゴール 79
ゴール・フリー評価 →目標にとらわ
れない評価

● さ 行

細目積み上げ方式 124
作 品 10,116,139,161
 アンカー—— 150
作問法 128
座席表 133
参 加 15,47
 子どもの評価活動への—— 74
資格付与 62
思 考 98
—する文化 107
—の習慣 106
活用志向の—— 98
批判的—— 106
理解志向の—— 98
思考・判断・表現(思考力・判断力・
表現力) 9,21,103,210
自己効力感 105
自己調整 105,160
自己評価(力) 10,18,116,158
資質・能力 8
実技テスト 9,131
実行可能性 11,122

- 指導
 —改善 60,66
 —と評価の一体化 18,55,66
 机間—— 10
 指導計画 11,144
 単元—— 144
 年間—— 144
 指導要録 4,16,85,202,243,246,250
 —の指導機能 203
 —の証明機能 203
 自由記述式 9,127
 自由主義教育 239
 習熟 86
 修身科 237
 修正測定派 242
 集団準拠評価 24
 集団標準 24
 習得目標 102
 授業
 —改善 3,191
 —カンファレンス 196
 —研究 193
 —検討会 195
 —チェックリスト 192
 —の質 191
 —評価 192
 詰め込み—— 247
 授業評価アンケート 192
 熟達目標 103
 受験 220,244
 情意（領域） 8,81,90
 学習の入り口に関わる—— 105
 学習の出口に関わる—— 106
 小学教則 235
 省察 118
 所見欄 29,205
 所有権 12,140,163
 思慮深さ（反省性） 92
 進学率 225
 仁義忠孝 19,237
 人事考課制度 187
 真正の評価 10,43,116,254
 診断的評価 6,52,174
 人物考査 221,239
 人物重視 221
 人物第一・学力第二 19,237
 進歩主義の教育 242
 進歩の状況欄 29
 信頼性 11,28,35,114,124,243
 評価者間—— 115
 評価者内—— 115
 進路指導 220,239
 スキル 100
 個別的—— 145
 思考—— 101
 情報・メディア・テクノロジー——
 92
 生活とキャリアの—— 92
 21世紀型—— 8,92
 認知的・社会的—— 102
 汎用的—— 9,253
 スタンダード 40,64
 —に基づく教育改革 40,64
 教員養成—— 189
 生涯学習—— 102
 専門職—— 188
 内容—— 102
 スタンダード準拠評価 46,103
 ステイクホルダー（評価関係者）
 14,41
 ストップモーション方式 195
 成果主義 39
 生活の論理 245
 正規分布曲線 24,30,252
 性向 106
 知的—— 106
 精神運動領域 81
 精神検査法 239
 成績 6,108
 世襲制 216

接 続 19,226
絶対評価 20,25,241
全国一斉学力調査 246
全国学力・学習状況調査 16,39,253
全人評価 107
選択回答式 9,124
選 抜 18,28,62,225
——方法の多元化 224
総合的評価 6,36,52,59,108,174
操 行 25,241
総 合 98
総合的な学習の時間 21,100,171,249
相互評価 18,72
創造性 92,118
相対評価 4,20,24,240
——と個人内評価の接合 30
5段階—— 25,244
絶対評価を加味した—— 29
測 定 3
素質決定論 28,239

● た 行

大学入学希望者学力評価テスト
224
大学入試改革 254
大衆教育社会 219
態度主義 85,88
タイラー原理 4
第六号訓令 238
タキノノミー
新しい—— 93
改訂版—— 93
ブルーム・—— 81
多重知能 43
達成水準 40
妥当性 11,114,125
規準関連—— 115
結果的—— 121
構成概念—— 115

内容的—— 115
多文化主義 41
段階説 86
単 元 144
知 育 237
知行合一 20,240
知 識 81,93,100,102,124
概念的—— 93
事実に—— 93,145
宣言的—— 93
手続きの—— 93
メタ認知的—— 93
知の構造 145
地方分権化 171,176
調査書 →内申書
通過儀礼 (イニシエーション) 27
通信簿事件 245
通知表 18,211,246
——づくり 214
到達度評価型の—— 212,245

級方教師 240
適 用 81,98
テスト主義 221
転移可能な概念 145
統一性 121
動機づけ 105
等級制 19,235
到達度評価 20,31,90,212,247
到達目標 31,249
道徳的価値 107
徳育重視 19,237
特別なニーズ 70
徳目主義 8
読解力 21,253
ドメイン準拠評価 46,103

● な 行

内申書 (調査書) 221,239
——重視 223

内的な評価	73	パフォーマンス像	117
内容	81,93	パフォーマンス評価	10,43,116,152,254
——観点	207	藩校	235
——スタンダード	102	比較可能性	11,120,151
教育——	226	筆記テスト	9
教科——	8,82,86,101	批判的思考	92,106
内容知	93	評価規準(規準)	12,84,119
二次元マトリックス	82	——の決定権	12,163
日常的な評価	132	評価基準(基準)	12,35,84,119,150,163,177
入学者受け入れ方針(アドミッショ ン・ポリシー)	230	評価指標	12
入試(制度)	19,215	描画法	130
一芸一能——	224	評価リテラシー	47
AO——	224	表現活動	34
資格試験型の——	227,228	表現成果	34
認知(領域)	8,81,90,95,102	氷山モデル	90
——的価値	108	標準化	41
——的葛藤法	129	標準授業時数(単位数)	171
高次の——過程	94	標準テスト	42
認定評価	26	評定	6,17,108
ねがい	79	——欄	28,29,205
ねらい	79	総合——	205
年数主義	20,235	分析——	205
能力	3,31,43,93,215	フィードバック	67,158
——観点	207	複雑なプロセス(複合的プロセス)	96,99,145
——主義	219,244	プレゼンテーション	10
——の階層レベル	94	並行説	86
——の要素	94	偏差値	25,220,244
知的・社会的——	92	方向目標	31
21世紀型——	253	方法知	93
汎用的な資質・——	93	ポスト近代型能力	9,222
ポスト近代型——	9,222	ポスト近代社会	92,223
● は 行		ポートフォリオ	10,46,116,161
ハイ・ステイクス	42,65	——検討会	11,119,165
——な評価	18	一枚——	250
バカコレア	227,228	ポートフォリオ評価法	10,116,139,161,250
パフォーマンス課題	10,45,116,133,148	本質的な問い	146

- 単元ごとの—— 147
- 包括的な—— 147
- ま 行
 - マイノリティ 40
 - マークシート方式 124
 - マスタリー・ラーニング 30,54
 - ミッション 109
 - みとり 57
 - めあて 79
 - メタ認知（能力） 18,72,118,140
 - システム 100
 - 的知識 93
 - メリトクラシー 216
 - ハイパー・—— 222
 - 面接 221
 - 目的 →教育目的
- 目標 →教育目標
- 目標に準拠した評価 4,26,33,35,47, 207,250
- 目標にとらわれない評価（ゴール・フリー評価） 5,34
- モデレーション（調整） 119
- ら 行
 - 羅生門的アプローチ 37
 - 理解 81,102
 - 永続的—— 146
 - リテラシー 253
 - ループリック 12,45,116,150
 - 一般的—— 103
 - 長期的—— 154
 - レディネス 53

人名索引

● あ 行

アイスナー, E. W. 34
青木誠四郎 242
アップル, M. 40
アトキン, J. M. 38
アンダーソン, L. W. 93
今泉博 194
ウィギンズ, G. 44,145
ウィリアム, D. 66
岡部弥太郎 238

● か 行

鹿毛雅治 254
梶田毅一 53,90
ガードナー, H. 43
ガニエ, R. M. 82
荻谷剛彦 219
ギップス, C. 67
グリーン, X. 242
桑田昭三 220

● さ 行

斎藤喜博 57,193
小砂丘忠義 241
佐々木昂 240
サドラー, D. R. 45,67
ジーマーマン, B. J. 105
スクリヴァン, M. 34,53

● た 行

タイラー, R. W. 3,33,83,242
田中寛一 238
田中耕治 47
東井義雄 244

● な 行

中内敏夫 86
長島貞夫 242
中村高康 223

● は 行

ハーレン, W. 60
広岡亮蔵 85
ブラック, P. 66
ブルーム, B. S. 30,53,83
掘哲夫 250
本田由紀 222

● ま 行

横山栄次 239
マクタイ, J. 145
増田幸一 243
マルザーノ, R. J. 93,102

● や 行

ヤング, M. 216,219



有斐閣コンパクト

新しい教育評価入門——人を育てる評価のために
Introduction to Educational Assessment and Evaluation

2015年4月1日 初版第1刷発行

2016年10月10日 初版第3刷発行

	西岡加名恵
編者	石井英真
	田中耕治
発行者	江草貞治
発行所	株式会社 有斐閣

郵便番号 101-0051

東京都千代田区神田神保町 2-17

電話 (03) 3264-1315 [編集]

(03) 3265-6811 [営業]

<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・萩原印刷株式会社／製本・牧製本印刷株式会社
©2015, Kanae Nishioka, Terumasa Ishii, Koji Tanaka. Printed in Japan
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-17407-8

JCOPY 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。